

# 北足立北部退職校長会 会員だより

第 45 号

発行責任者 井 関 由 美 夫  
印刷所 吉 野 印 刷

## 定年延長に想う

会 長 井 関 由 美 夫

今年の夏は記録的な暑さで、エアコンなしでは過ごせない毎日でしたが、会員の皆様には、いかがお過ごしだったでしょうか。

さて、本年度から、公務員の定年年齢が二年毎に段階的に引き上げられ、令和十三年度に六十五歳定年が完了します。校長は、六十歳で「役職定年」となり、残りの退職年までは、原則、主幹教諭等とし校務に当たることになります。このため、従来の「退職校長を以て会員とする」という会則をそのままで解釈すれば、さし当たり来年度は、本会入会者がなくなりそうです。会員数の激減は避けられません。先を予想すれば、六十歳で役職定年となった人が、五年後の退職の時に、改めて退職校長会に入会するだろうかと思わします。解決策としては、会則に、「役職定年」を以て入会できると解釈を加えることです。このことは、全国の各段階の退職校長会が軌を一にしなければ

なりません。こんな心配をしていたところ、十月の埼玉県退職校長会理事会で、「定年ではないが校長としての職を終える方」として六十歳役職定年者も入会できるとする提案があり、了承されました。従って、来年度の入会者はある、ということになります。今後は、フルタイム勤務の会員が増加する予想の下、多くの方が本会の活動に参加できるよう常に配慮していく必要があります。

三年間のコロナ禍により、本会の活動も大幅に制限されてきましたが、十月に日帰りの懇親旅行を実施できました。予想を超える二十六名の参加を得ました。会報委員会と研修委員会も各位連携のもとに着々と会務を進めていただいています。各地区の配布担当の皆様には大変なお手数をおかけしています。改めて感謝申し上げます。 日毎に寒気が増しますが、皆様のご健康とご活躍を祈念し結びとします。

## 現状を考える

副会長 小 川 久 雄

コロナ禍ですが、感染症の五類移行に伴い、様々な活動が再開されています。各種行事の規模縮小、懇親会の自粛等がありますが、明るい一歩と思えます。こうした中、世界を見渡すと戦争、人権侵害、飢餓等悲しい現実があります。日本は自由で開かれた民主主義国家であり、人権尊重、SDGsの十七のゴールを目指し、ユニバーサルデザイン社会の実現、人に優しい社会を実現させようとしています。

しかし、現実には価値観の相違や日本社会の複雑な構造があり、様々な難しい問題を生みます。いじめ問題や不登校、ヤングケアラー問題、地域社会も複雑で課題があります。学校は教員不足、特に代員教員不足は深刻です。IT堪能教員、英語堪能教員不足。更に働き方改革の現実、部活顧問対策等があります。学校統合問題、教育オンブズマンによる教育への切り込みもあります。市民相談や人権相談も複雑化しています。 さて、退職校長はどう関わるか。教育推進協議会、現職と退職校長との懇話会、学校運営協議会、青少年赤十字賛助奉仕団への参加等ができます。地域の方と青パト巡回、登下校での見守り挨拶運動への参加も有効です。それ等を活用しサポートできればと思います。

## 渋沢栄一から牧野富太郎へ

副会長 佐 藤 豊 明

令和三年度の大河ドラマ「青天を衝け」では、深谷市の血洗島が舞台となった。私の母親は利根川の中瀬河岸場（現在の深谷市）付近に生まれ、縁あって祖父を中心に家族が富岡製糸場の官舎に住んで、女工さんの世話をしていた。 渋沢栄一ともつながりがあり、毎週かかさず視聴していた。ドラマ終了後、渋沢栄一が眠る東京都の谷中霊園を尋ねた。大きな整備された墓地がそこにはあった。もう一つきれいに掃除された案内板がある墓地があった。近づくとなが飾られた牧野富太郎のお墓だった。まさか令和五年度、NHKの朝ドラ「らんまん」に結びついてくるとは、

予想できなかった。私自身こんなに朝ドラに夢中になって連続、視聴したのは初めてだった。 彼は幼い頃から植物が大好きで独学で植物学を学んだ。千五百種類以上の植物を発見・命名するなど、日本の植物分類学の基礎を築くのに尽力した。 さらにドラマですごかったのは、妻の寿衛が五十六歳で亡くなった時、富太郎は前年に宮城県で発見した新種の笹に妻を偲んで「スエコザサ」と名付けたことだった。この場面では、久しぶりに胸が熱くなった。もう一度、谷中霊園と牧野記念庭園を尋ねてみたい。

# 北足立北部だより

福田 安孝

## ◇北足立北部定期総会

令和五年度総会は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止していたが、ようやく三年ぶりに五月六日(土)鴻巣市文化センター(クレアここのす)において開催することができた。総会では、事業報告、決算報告、予算、新年度役員案などが承認された。なお、懇親会は引き続き中止とした。

## ○正・副会長以下の役員

- ・顧問 秋池 功
- ・会長 井関由美夫
- ・副会長 小川久雄(上尾班)
- ・幹事 (長) 福田安孝 (会計) 松田康秀 (庶務) 菅田 泉
- (委員長) 中村敏男、奈良高男
- 三ツ木和代

青木一弥(上尾班幹事長)

須藤一幸(鴻巣班幹事長)

・監事 青木 清、米田久仁夫

・理事 各委員会名簿に表記

## ○第一回正・副会長・幹事会

## ○第一回理事会・委員会

六月十日(土)上尾市文化センター

議題一 本年度の事業計画の具体化

二 予算執行について

三 各委員会の活動内容と分担

## ○第二回正・副会長・幹事会

九月九日(土)上尾市文化センター

議題一 各班退職校長会からの報告

二 本年度事業報告の進捗状況

## ○教育推進委員会

(長) 中村敏男・曾我部延孝・矢野誠二・田代孝治・高荷國男・加藤修・小川隆二

(彩の国教育の日) 「現職・退職校長教育推進協議会」十月二十七日(金)上尾市文化センターの開催に向け、開催要項・役割分担・お知らせの配布等を行った。なお、懇親会は本年度も中止とした。

## ○懇親旅行委員会

(長) 奈良高男・山口秀之助・茂木京子・大塚 明・森陽一郎・長谷川洋・靄間和夫

今年度は日帰り旅行を十月十五日(日)茨城県つくば・土浦方面の旅行を計画した。この旅行に向けて具体的な実施計画・旅行の案内配布・参加者の確認等を行った。

## ○会報委員会

(長) 三ツ木和代・堀越洋子・飯塚睦・落合啓志・志村好文・青木慶一・加藤幸弘

会員だより第四十五号の発行に向けて企画・編集・原稿執筆のお願いの配布等を行った。

## ○埼玉県退職校長会総会

六月二日(金)さいたま市文化センターで開催した。

# 上尾班だより

青木 一 弥

## ○定期総会

四月十五日、令和五年度定期総会を上尾市文化センターにおいて開催。

## ○令和五年度事業状況

①新会員は六名、会員総計は百七十七名(十月一日現在)

②会員だより(あおい)第三十号を七月に発行した。「会報三十一号」は令和六年三月に発行予定。

## ③現職・退職校長懇話会

七月二十七日、上尾市内小・中学校校長と班内退職校長との懇話会が開催された。上尾市立東小学校校長山田正浩氏による今日的な学校課題についての発表と協議を実施し、活発な意見交換がなされた。

## ④退職校長名簿の配布

八月、学校を様々な観点から支援することを目的として、通学区域在住の退職校長名簿を班内小・中学校長に配布した。

## ⑤会員研修

十一月七日、足利学校・鏝阿寺・織姫神社・権崎八幡宮等、足利氏ゆかりの地を巡る日帰り研修旅行を実施することができた。

## ⑥同好会活動

光彩会(写真)の撮影会・写真展等、熱心な活動が行われている。

# 鴻巣班だより

須藤 一 幸

## ○定期総会

四月十五日(土)鴻巣市笠原公民館で四年ぶりに開催。鴻巣市教育委員会教育長職務代理加藤幸弘様を来賓としてお迎えし、会員三十八名の参加で実施。議長は塩原博氏が務め、前年度の事業・決算・監査報告や新年度の役員案件・事業計画・予算案などが審議され原案通り承認された。

## ○令和五年度の事業状況

①新会員は三名、会員総数は百二十五名で、昨年度より二名減となった。

## ②第一回役員会

六月十七日(土)北本市西部公民館にて開催。県及び北部の動向が報告された。また班研修会の日程や内容が担当の北本地区より提案された。

## ③会員研修会

十月十一日(水)会員の研修会が実施された。内容は「北本市の歴史散歩」で十七名が参加した。日本五大校の一つで国指定天然記念物の石戸蒲ザクラ、北本自然公園内を歩いて一夜埴、石戸城址に着く。さらに石戸宿の天神社、御茶屋跡などを見学。北本市教育委員会文化財保護課の磯野治司氏の詳しいガイドで大変充実したものになった。その後、徳樹庵にて食事会が行われ、十五名が参加し楽しいひと時をすごした。